

# スポーツ振興基盤整備の考え方について

～ ワーキンググループにおける調査・検討から ～

## 【目次】

- スポーツ振興基盤整備の考え方について ……1
- 1 競技力向上に向けた人財(選手・指導者)の育成 ……4
- 2 スポーツを通じた地域づくりの推進 ……7
- 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ……10

平成23年6月21日

青森県スポーツ振興基盤整備調査検討会議

## スポーツ振興基盤整備の考え方について

- 価値観の多様化や生活様式の変化
- 人口減少や少子高齢化の急激な進展

日常生活における運動機会の減少や体力の低下、人間関係の希薄化による精神的ストレスの増大・・・

生きがいや心の豊かさ、健康増進等へのニーズの一層の高まり

**スポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に資するために必要な文化**

- 心身両面にわたる健康の保持増進
- 未来を担う子どもたちの健全な発達を促進
- 県勢の活躍は、県民に夢や希望、地域に活力や連帯感
- 交流人口拡大は地域に経済波及効果

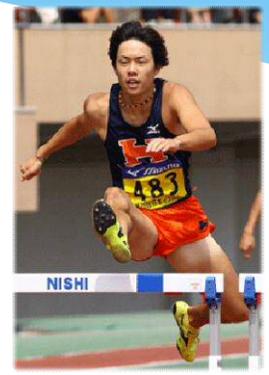
ライフステージを通じてスポーツに親しむことができる「**豊かなスポーツライフ**」を創出するために、

**子どもから大人まで県民だれもが生涯にわたって主体的にスポーツに親しめる環境（＝スポーツ振興基盤）を整えていくことが重要**

具体的には！

# スポーツ振興基盤整備の考え方について

県民に元気を与える県勢の活躍や、地域におけるスポーツの振興に資するよう、**県民に夢や希望を与えるアスリートの育成とそれを支える指導体制の充実** に向け取り組む必要がある。



岸本鷹幸選手（法政大、大湊高卒）、第95回日本陸上競技選手権大会400mハードル優勝、世界陸上内定。



「2011 熱戦再来北東北総体」高校生一人一役活動青森県生徒実行委員会のシンボルマーク

スポーツを支え、スポーツにより地域が活性化するよう、**スポーツを通じた地域の活性化とそれを支える協働体制の構築** に向け取り組む必要がある。



(写真上) 青森県陸上競技場  
(写真右) Kankoスタジアム(岡山県)



3つの施策をガッチリ組み合わせスポーツ振興を推進

スポーツを支え、地域づくりを支えるスポーツ施設、特に地域スポーツ施設の中核となる、**『スポーツ振興を支える施設』の整備推進** に向け取り組む必要がある。

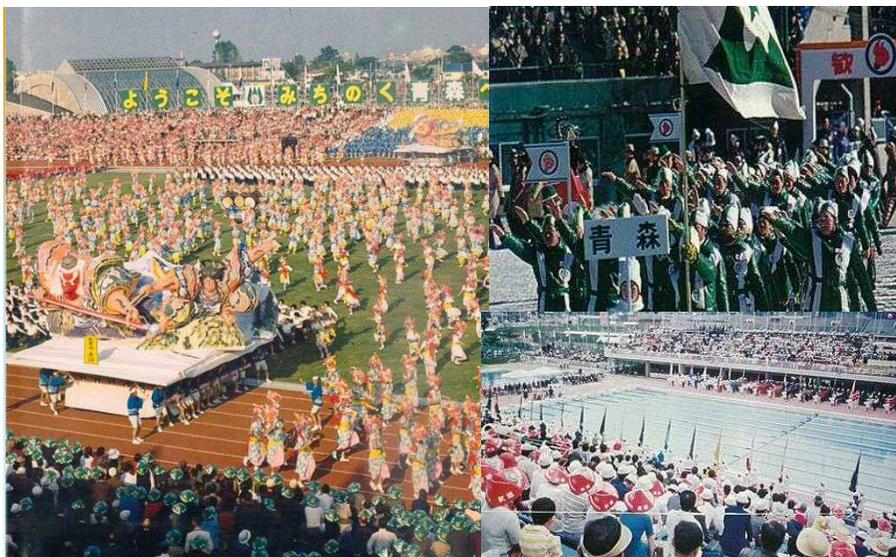
本計画では、現在のスポーツ振興基盤に関する状況を踏まえつつ、今後のスポーツ振興に向け必要となる諸条件の整理を行い、その方向性を定めるものである。

## 【参考情報】本県における国体の開催について

### 「あすなる国体」昭和52年(1977年)

- スローガン:心ゆたかに力たくましく
- 初の完全国体

- ・競技数:34競技 (現在は40競技)
- ・参加者数:25,396人
- ・冬季スケート国体  
昭和52年1月22～25日(八戸市)
- ・冬季スキー国体  
昭和52年2月17～20日(大鰐町)
- ・夏季国体  
昭和52年9月4～7日  
(青森市、むつ市、十和田湖町)
- ・秋季国体  
昭和52年10月2～7日(21市町)



○国体は、東、中及び西地区の輪番で開催され、現在2巡目。本県が属する東地区15都道府県では、11都道県において開催済み・開催決定(内定・内々定)・内々定見込みとなっている。

### ○ 東地区(15都道県)における国体開催・予定状況

回数	年		名称	開催地
29	昭和49年	1974年	水と緑のまごころ国体	茨城県
32	昭和52年	1977年	☆あすなる国体	青森県
35	昭和55年	1980年	栃の葉国体	栃木県
38	昭和58年	1983年	☆あかぎ国体	群馬県
41	昭和61年	1986年	かいじ国体	山梨県
44	平成元年	1989年	☆はまなす国体	北海道
47	平成4年	1992年	☆べにばな国体	山形県
50	平成7年	1995年	☆ふくしま国体	福島県
53	平成10年	1998年	かながわ・ゆめ国体	神奈川県
56	平成13年	2001年	新世紀・みやぎ国体	宮城県
59	平成16年	2004年	彩の国まごころ国体	埼玉県
62	平成19年	2007年	秋田わか杉国体	秋田県
65	平成22年	2010年	ゆめ半島千葉国体	千葉県
68	平成25年	2013年	スポーツ祭東京2013	東京都
71	平成28年	2016年	未定	岩手県
74	平成31年	2019年	未定	茨城県
77	平成34年	2022年		(東地区)
80	平成37年	2025年		(東地区)
81	平成40年	2028年		(東地区)
82	平成43年	2031年		(東地区)

(2巡目)

(内々定)  
(見込み)

☆は完全国体

人財(選手・指導者)育成や地域活性化、必要とされる施設整備などを進めるに当たっては、本県における2度目の国体開催の動向も見定めることが必要。

# 1 競技力向上に向けた人財（選手・指導者）の育成

～県民に夢や希望を与えるアスリートの育成とそれを支える指導体制の充実～

## 現状と課題

「お家芸」競技をはじめとした競技力の低迷

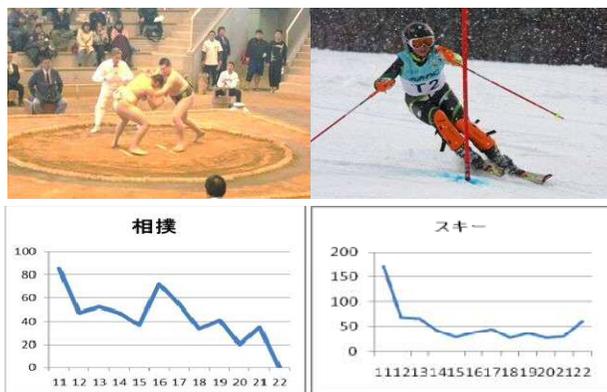
- ・国体天皇杯順位の30位前後で推移
- ・相撲、スキー、自転車など、かつて「お家芸」と呼ばれた競技の低迷
- ・中学や高校で強い選手が県外に流出（指導・支援の受け皿が不足）

急激な人口減少・少子高齢化により、若年層を中心に競技人口が減少

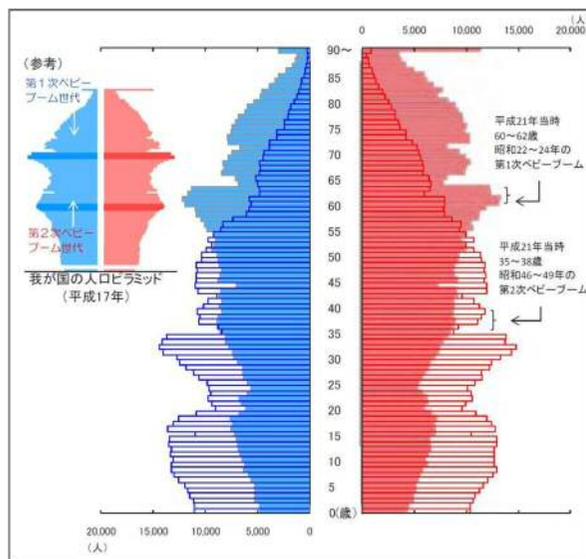
- ・生徒数の減少により、単独の学校区でチームが作れない
- ・部活動の存続が危うい
- ・部活動の絞り込みをせざるを得ない

生徒数減少による教員減少、体育指導委員の減少による指導者不足の進展

- ・かつて強力な指導力を発揮した教員の後継が育っていない
- ・部活動を指導できる能力と意欲を持った教員の減少
- ・市町村合併の影響で体育指導委員が減少



【上図】相撲・スキーの国体における各得点の推移



【右図】青森県の推計人口の推移



資料) 県統計分析課「推計人口」

■男(昭和55年) ■男(平成21年)  
■女(昭和55年) ■女(平成21年)

# 1 競技力向上に向けた人財（選手・指導者）の育成

～県民に夢や希望を与えるアスリートの育成とそれを支える指導体制の充実～

## 現状と課題

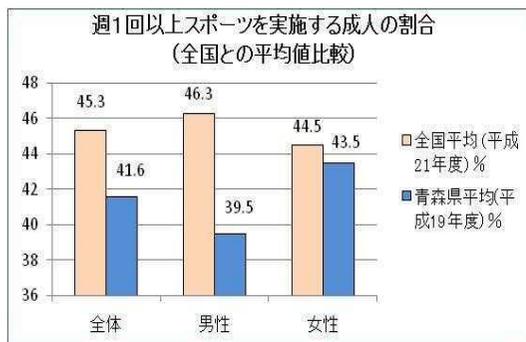
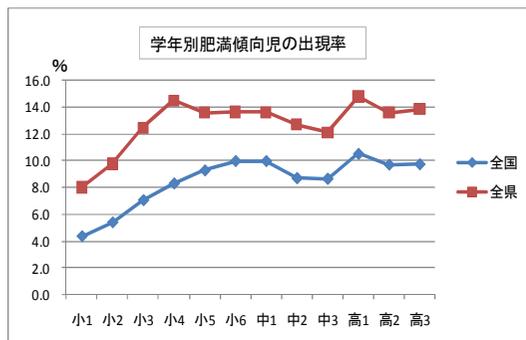
子どもの体力の低下  
きわめて低い成人のスポーツ行  
動率

- ・青森県の子どもたち＝肥満傾向児出現率が全国平均以上、「体格いいが、体力なし」
- ・週1回以上スポーツを実施する成人の割合が全国平均と大きく乖離

総合型地域スポーツクラブの伸  
び悩み

- ・少子高齢化が進展する中で、**地域スポーツ基盤の中心としての役割が期待される**が、登録会員の伸び悩みや脆弱な財政基盤・運営体制等の課題が多々あり、県内における設立は伸び悩んでいる。（平成23年5月31日現在22クラブ）

※総合型地域スポーツクラブは、地域住民が主体的に運営するスポーツクラブで多世代、多種目、多志向という特徴を持つ。



### 総合型地域スポーツクラブ に期待できる効果 (10のメリット)

- 1 スポーツ実施率の向上
- 2 青少年の健全育成
- 3 地域教育力の向上
- 4 地域コミュニティの形成
- 5 親子や家族・世代間の交流促進
- 6 一貫指導体制の構築
- 7 スポーツ施設の有効活用
- 8 情報の共有
- 9 医療費の削減
- 10 高齢者の生きがいづくり

### 【総合型地域スポーツクラブを取り巻く主な課題】

#### ○脆弱な財政基盤

自主財源である会費収入の活動費に占める割合が一ケタの団体があるほか、補助・助成金の割合が、活動費の7割を超える団体も複数みられる。

#### ○脆弱な運営体制

専任の指導者や事務局員の確保が難しく、非常勤で対応している団体があるほか、専用のクラブハウスを有する団体も若干数にとどまっている。

#### ○会員の伸び悩み

地域において、総合型地域スポーツクラブに関する知識・情報が十分に浸透していないこと、「お金を払ってスポーツをする」という意識が十分に浸透していないことなどにより、会員の確保が十分できていないとする団体が多数ある。また、会員の年代層が固定化し、クラブ自体の活性化が十分図られないなどの課題もある。

# 1 競技力向上に向けた人財（選手・指導者）の育成

～県民に夢や希望を与えるアスリートの育成とそれを支える指導体制の充実～

スポーツの持つメリットを県民が実感・享受するためには、「人財(選手・指導者)の育成」が急務！



これまでの成果を活かしながら、人財(選手・指導者)の育成(=底辺拡大、競技力向上)に向け、基盤となる枠組みや具体的な取組をさらに充実・発展させる必要がある。

具体的には、

「お家芸」競技をはじめとした競技力の低迷

生徒数減少による教員減少、体育指導委員の減少による指導者不足の進展

急激な人口減少・少子高齢化により、若年層を中心に競技人口が減少

子どもの体力の低下  
きわめて低い成人のスポーツ行動率

総合型地域スポーツクラブの伸び悩み



## 2 スポーツを通じた地域づくりの推進

～スポーツを通じた地域の活性化とそれを支える協働体制の構築～

### 現状と課題

#### ア スポーツを通じた地域づくりの取組例

青森市の「カーリングの街づくり」

フェンシングの町・駅伝の町

市民マラソン大会による地域活性化

競技団体、商工団体、行政、地元住民ががっちりスクラムを組み、「地域が誇れるシンボルスポーツづくり」や「スポーツ振興による地域づくり」

市民マラソン大会は、県内でも、自治体・企業の主催で開催され、大会名やコース、参加賞や出店ブース等で地域の特徴や特産物を積極的にアピール



#### イ 新たな視点による地域づくり

##### (ア) スポーツ観光

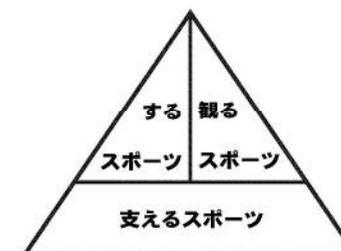
- 観光庁が積極的に推進する「スポーツ観光」について、本県においても、「スポーツと観光資源（食、温泉、自然、祭りなど）」「スポーツと医療・健康づくり」など、**複眼的な切り口**で、スポーツと観光を融合したプログラムづくりなどを推進していく必要がある。

##### (イ) スポーツ・コミッション（「フィルム・コミッション」のスポーツ版）

- 胸躍らせる、すばらしいプレーを間近に見ることができるプロスポーツや大規模スポーツ大会・合宿の誘致
- 地域に根ざしたクラブチーム等の活動円滑化に向けた調整
- スポーツボランティアのマネジメント 等

##### (ウ) スポーツボランティア

- 学校における運動部活動や地域のクラブチーム、大規模スポーツ大会等の魅力あるスポーツイベントの円滑な運営・充実に向けてスポーツボランティアの協力が不可欠



観光関連団体との連携により、地域活性化・スポーツ振興・観光振興を図る

地域住民をはじめとする多くのボランティアの安定的な参加が不可欠であり、スポーツボランティアの普及・育成を図る

## 2 スポーツを通じた地域づくりの推進

～スポーツを通じた地域の活性化とそれを支える協働体制の構築～

スポーツを地域づくりや地域振興の戦略として総合的・複眼的にとらえ、それに向けたビジョン(あり方・方向性)を関係者でしっかりと共有していく必要がある。

### 育てる

地域密着型クラブチーム等の育成支援

- 地域に根ざしたクラブチームや地元大学・企業チーム等を多様な主体の連携で育成・支援
- クラブチーム等に対するスポーツ医科学支援促進

### 支える

スポーツを支える体制づくり

#### 《スポーツ・コミッション活動の活性化》

- 観光関連団体との連携、企業・個人を対象とした寄付制度等の設立等により、スポーツ・コミッション活動(組織)の活性化推進

#### 《スポーツボランティア活性化に向けた体制の充実》

- スポーツボランティアの活動内容や募集情報等をわかりやすく紹介・周知
- 公共体育施設においてボランティア組織を開設・運営
- 公益性の高いスポーツイベントや学校における部活動指導の運営等に自治体職員が参加しやすい環境づくりを推進

#### 《競技サポーター制の導入検討》

- 企業や個人が競技種目ごとに、大会運営や競技団体運営などの各種支援を行う競技サポーター制の導入検討
- 競技種目ごとに、高校、大学等における運動部活動経験者のリスト化・ネットワーク化を推進
- 企業等と競技団体とのタイアップによる商品開発・広告・販売の推進

## 2 スポーツを通じた地域づくりの推進

～スポーツを通じた地域の活性化とそれを支える協働体制の構築～

### 呼び込む

スポーツイベント・合宿等の誘致

- プロスポーツの試合やトップアスリート等(大学・社会人含む。)による練習合宿等の積極的な誘致を推進
- ホスピタリティ(おもてなし体制)の充実

スポーツツーリズム等交流人口拡大に向けた取組

- 大規模スポーツ大会等の観戦(観るスポーツ)、マラソン・スキー・その他競技スポーツ等への参加・体験(するスポーツ)を付加した観光企画商品の造成に向けた情報提供、便宜供与等の推進
- 各種体育施設における魅力的な体験メニューの充実促進と、スポーツ振興とは異なる領域(農林水産、医療福祉、観光等)との人的ネットワークづくりを推進

### 発信する

スポーツイベント開催情報・施設情報の集約発信

- 公立・民間スポーツ施設に係る施設情報やイベント開催情報、イベント体験情報、事業紹介等を集約したポータルサイト(総合窓口)の整備・運営
- 競技団体間及び体育施設管理者間のネットワーク強化に努め、本県優位資源に関する情報を発信するなど、競技団体による合宿等の誘致を推進

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 県内スポーツ施設の主な整備状況

##### 【陸上競技場】

名称	所管	仕様等
青森県総合運動公園陸上競技場	青森県	第1種公認
弘前市運動公園陸上競技場	弘前市	第2種公認
むつ運動公園陸上競技場	むつ市	第2種公認
八戸市東運動公園陸上競技場	八戸市	第3種公認
八戸市南郷陸上競技場	八戸市	第3種公認
東北町北総合運動公園	東北町	第3種公認
六戸町総合運動公園陸上競技場	六戸町	第3種公認



##### 【水泳場】

名称	所管	仕様等
青森県総合運動公園水泳場	青森県	50m屋外公認
八戸市民プール	八戸市	50m屋外公認
十和田市民プール	十和田市	50m屋外公認
新青森県総合運動公園	青森県	25m屋内
青森市民室内プール	青森市	25m屋内公認
鱒ヶ沢町室内温水プール	鱒ヶ沢町	25m屋内公認

##### 【武道館】

名称	所管	仕様等
青森県武道館	青森県	主・補助競技場、柔道場、剣道場、相撲場等

##### 【漕艇場】

名称	所管	仕様等
新田名部川漕艇場	むつ市	C級公認

##### 【総合体育館・多目的施設】

名称	所管	仕様等
マエダアリーナ	青森県	
スポカルイン黒石	黒石市	
つがる克雪ドーム	五所川原市	
しもきた克雪ドーム	むつ市	
ひらかドーム	平川市	

##### 【スケート場】

名称	所管	仕様等
八戸市バイピングスケートリンク	八戸市	公認400mダブル
サンワアリーナ青森	青森県	
新井田インドアリンク	八戸市	
南部山アイスアリーナ	八戸市	
三沢アイスアリーナ	三沢市	
ふくちアイスアリーナ	南部町	

##### 【野球場】

名称	所管	仕様等
青森県総合運動公園野球場	青森県	両翼93m、中堅121m、収容21,000人
合浦公園スタジアム	青森市	両翼98m、中堅121m、収容10,000人
弘前市運動公園球場	弘前市	両翼93m、中堅120m、収容12,000人
八戸市東運動公園野球場	八戸市	両翼93m、中堅120m、収容9,000人
黒石市運動公園野球場	黒石市	両翼92m、中堅120m、収容10,000人
大鰐スタジアム	大鰐町	両翼100m、中堅120m、収容7,000人
六戸町総合運動公園野球場	六戸町	両翼98m、中堅122m、収容5,000人

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### ○県有体育施設の状況

- 青森県総合運動公園(青森市安田)と新青森県総合運動公園(青森市宮田)に集約配置
- サンワアリーナ青森(青森県営スケート場)は青森市に
- 青森県武道館は弘前市に



県内スポーツ施設の**中核・拠点施設**として、本県スポーツ振興における重要な役割を担ってきた

ただし、陸上競技場、水泳場、野球場については、竣工から40年以上を経過し、著しく老朽化が進んでいるほか、現在の国体施設基準との整合やプロスポーツの実施が困難な状況にある。

#### 1 青森県総合運動公園陸上競技場(昭和41年竣工、**築44年**)

○規模：主競技場 400m×8レーン(17,000席(芝席込み)) 補助競技場 300m×6レーン ※第1種公認B競技場

#### 2 青森県総合運動公園水泳場(昭和41年竣工、**築44年**)

○規模：屋外プール 50m×9コース(※日本水泳連盟公認屋外プール) 深水プール 水深6m

#### 3 青森県総合運動公園野球場(昭和42年竣工、**築43年**)

○規模：両翼93m、中堅121m(約21,000席(芝込み))

#### 4 サンワアリーナ青森(県営スケート場(昭和60年竣工、**築26年**))

○規模：250mスピードリンク、60m×30mアイスホッケーリンク(2,028席(移動席含む))

#### 5 青森県武道館(平成12年竣工、**築10年**)

○規模：主競技場(広さ：バスケットボール2面)、補助競技場(広さ：バレーボール1面)、柔道場、剣道場、相撲場、近的・遠的弓道場、トレーニングルーム、合宿所(収容96名)

#### 6 マエダアリーナ(新青森県総合運動公園総合体育館(平成14年竣工、**築8年**))

○規模：64m×46mメインアリーナ(5,348席(移動席含む))、46m×32mサブアリーナ、屋内プール25m×8コース、トレーニングルーム、合宿所(部屋数57室・収容145名)

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

本県における、競技スポーツの振興や地域スポーツの振興、スポーツを通じた地域づくりをさらに推進していく上で、これらを支えるスポーツ施設を、次の点を留意し、着実に整備していくことが重要

- 競技スポーツや地域スポーツの振興、スポーツを通じた地域づくりや地域活性化等に果たす役割・期待が大きいこと
- 学校体育(部活動)で盛んに行われているなど、広く県民に取り組み、競技人口も多いこと
- 多くの県民が「するスポーツ」「観るスポーツ」に利用できるなど、便益の享受を受けやすいこと
- 整備により、県民のスポーツや健康づくりに対する意識の高まりが期待できること

加えて、

- 本県における地域スポーツ施設の中核・拠点施設として整備され、利用されてきた県有体育施設は、引き続きその役割を果たす必要があり、これら施設に対する県民の期待はなおも大きいこと
- 青森県行財政改革大綱(平成20年12月策定)において、「大規模施設については、既存施設の耐震や老朽化等のための改築・改修を優先すること」としていること

故に、

竣工から40年以上が経過し、老朽化が著しい、陸上競技場、水泳場、野球場については、今後整備を推進していくことが必要

整備に当たっては、

県民に夢や希望を与える国体等大規模大会の開催が可能な施設として、国体施設基準等の関係基準に準拠した仕様により整備

財政規律を守るため、財政支出の平準化を図り、段階的に整備することとするほか、本県における国体開催予定を踏まえて整備

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 陸上競技場の現状

- 竣工から44年を経過し、老朽化が著しい。
- 県内唯一の第1種公認陸上競技場。ただし、「補助競技場が第3種公認陸上競技場としての基本仕様(1周400m)を満たしていない」「雨天走路がない」など数点について、改善を求められている。
- 次回の公認取得(平成28年)に当たっては、走路やフィールドの整備など大規模改修が必要となる見込み。
- 現状では、Jリーグのスタジアム検査要項に定める基準と整合していないため、Jリーグの公式戦開催は難しい。

#### 陸上競技場の整備の方向性

陸上競技のほか、サッカー、ラグビーフットボールなどのプロスポーツの公式戦やホームスタジアムとしても利用可能で、これら競技を志す誰もがあこがれ、多くの県民が選手のパフォーマンスに胸を熱くする、県内競技スポーツ施設の中核・拠点施設(殿堂)として整備。

##### ➤ 様々な競技が実施できる競技場

陸上競技だけでなく、サッカー、ラグビーフットボールなど様々な競技の実施が可能な総合競技場として整備する。

##### ➤ 第1種公認陸上競技場の基準を満たす競技場

全国規模の陸上競技大会の開催を可能とするため、現在と同様、財団法人日本陸上競技連盟の第1種公認陸上競技場として整備する。

##### ➤ プロスポーツの開催が可能な競技場

プロサッカー(Jリーグ)の試合や将来Jリーグのホームスタジアムとして活用することを可能とするため、Jリーグスタジアム検査要項(J1クラス)を満たす競技場として整備するほか、ラグビーフットボールのトップリーグの開催を可能とするため、ジャパンラグビートップリーグ規約を満たす競技場として整備する。

##### ➤ 国民体育大会の開催が可能な競技場

将来の国民体育大会の開催に向けて、開閉会式会場や陸上競技会場としての活用を考慮して整備する。

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 想定される基本仕様

項目	想定される基本仕様
スタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収容人員 20,000人以上</li> <li>●座席数 15,000席以上（固定席）</li> <li>●屋根の設置 メインスタンド屋根設置</li> </ul>
フィールド	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トラック 400m×9レーン 全天候舗装</li> <li>●インフィールド 天然芝</li> </ul>
設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電光掲示板 大型映像装置</li> <li>●照明設備 1,500ルクス以上</li> </ul>
補助競技場	<ul style="list-style-type: none"> <li>●トラック 400m×6レーン（直走路8レーン） 全天候舗装</li> <li>●インフィールド 天然芝</li> </ul>

#### 仕様に見合うモデル施設

仕様に見合うモデル施設				
kankoスタジアム (岡山県総合グラウンド陸上競技場)	岡山県			
	竣工年	平成15年	規模・構造	建築面積 9,936㎡ 延床面積 19,606㎡ S造・一部RC造 地上4階建
	収容人員	20,000人		
	座席数（固定席）	15,589席	使用可能競技種目	陸上競技全般 サッカー ラグビーフットボール

主な規格	
【主競技場：第1種公認陸上競技場】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインスタンド屋根付き</li> <li>・400m×9レーン</li> <li>・全天候舗装</li> <li>・天然芝</li> <li>・大型映像装置</li> <li>・夜間照明(平均1,500ルクス以上)</li> <li>・雨天走路</li> <li>・陸上競技場事務室</li> <li>・情報処理室</li> <li>・医務室</li> <li>・ドーピング検査室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室</li> <li>・シャワー室</li> <li>・運営指令室</li> <li>・写真判定室</li> <li>・放送室</li> <li>・貴賓室</li> <li>・警備室</li> <li>・会議室</li> <li>・ウォーミングアップ室</li> <li>・遺跡&amp;スポーツミュージアム</li> </ul>
【補助競技場：第3種公認陸上競技場】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・400m×8レーン</li> <li>・全天候舗装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然芝</li> <li>・収容人員1,200人</li> </ul>

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 水泳場の現状

- ▶ 竣工から44年が経過し、老朽化が著しい。
- ▶ 競泳競技の練習施設としてのサブプールが使用できず、東北大会規模の大会運営に支障がある。
- ▶ 飛込台がないため、飛込競技ができない。
- ▶ シンクロナイズドスイミング競技における水深が国体施設基準に整合しておらず、競技ができない。
- ▶ 水球競技における水深が国体施設基準に整合しておらず、競技ができない。

#### 水泳場の整備の方向性

本県における水泳競技の選手・指導者育成の拠点施設として、また、多くの県民がトップアスリートのパフォーマンスに胸躍らせる夢舞台として、全天候型屋内温水プールを整備。

##### ▶▶▶ 年間通して競技が実施できるプール

天候に左右されず、冬期間でも水泳競技が実施できる屋内プールとして、新青森県総合運動公園の既存25m屋内プールに併設するよう整備する。

##### ▶▶▶ 様々な競技種目が実施できるプール

競泳だけでなく、飛込、シンクロナイズドスイミング、水球と幅広い競技種目が実施できる総合プールとして整備する。

##### ▶▶▶ 国内公認プールの基準を満たすプール

全国規模の水泳大会の開催を可能とするため、財団法人日本水泳連盟公認の50mプール及び飛込プールとして整備する。

##### ▶▶▶ 国民体育大会の開催が可能なプール

将来の国民体育大会の開催に向けて、水泳競技会場としての活用を考慮して整備する。

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 想定される基本仕様

項目	想定される基本仕様
50mプール (競泳・シンクロナイズドスイミング・水球兼用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コース 7コース以上</li> <li>●水深 可動床により可変</li> <li>●プール幅 可動壁により可変</li> <li>●温水プール</li> </ul>
飛込プール	<ul style="list-style-type: none"> <li>●飛板 高さ1m及び3m</li> <li>●飛込台 高さ5m、7.5m、10m</li> <li>●水深 可動床により可変</li> </ul>
スタンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収容人員 3,000人以上</li> <li>●座席数 2,000席以上</li> </ul>
設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●照明 1,500ルクス以上</li> <li>●自動審判計時装置(競泳)</li> <li>●電光掲示装置 など</li> </ul>
諸室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主な諸室 報道関係者室、自動審判計時装置格納室、選手控室及びロッカールーム、選手用シャワールーム及びトレーニングルーム等</li> </ul>

#### 仕様に見合うモデル施設

ダイエープロビスフェニックスプール (新潟県立長岡屋内総合プール)		新潟県
	竣工年	規模・構造
	平成20年	建築面積 12,629㎡ 延床面積 15,094㎡ RC造・屋根S造 地上3階・地下1階建
	収容人員	使用可能競技種目
	3,032人	競泳 シンクロナイズドスイミング 水球 飛込
座席数(固定席)	3,032席	
<b>主な規格</b>		
<b>【メインプール:日本水泳連盟公認】</b> ・50m×10コース ・水深:0~3.0m ・可動床 ・可動壁(2分割可能) ・競泳・シンクロナイズドスイミング・水球兼用		
<b>【飛込プール:日本水泳連盟公認】</b> ・25m×20m ・飛込台:10m・7.5m・5m・3m・0.5m ・飛板:3m及び1m ・水深:0~5m ・可動床 ・飛込・競泳・シンクロナイズドスイミング・水球兼用		
<b>【サブプール】</b> ・25m×8コース ・水深:0~1.4m ・可動床		
<b>【その他施設】</b> ・温浴プール ・記録・放送室 ・トレーニングルーム ・役員室 ・フィットネス用スタジオ ・応接室 ・会議室 ・医務室 ・多目的広場 ・ショップ		

### 3 県有体育施設の計画的な整備推進 ～ スポーツ振興を支える施設整備の推進 ～

#### 野球場の現状

- 竣工から43年を経過し、老朽化が著しい
- 国体施設基準には適合しているが、プロ野球1軍公式戦を開催するには、次の点をはじめとして、クリアすべき課題が多々ある
  - ・両翼100m以上確保
  - ・照度不足  
(内野2,000ルクス以上、外野1,200ルクス以上)
  - ・収容能力不足
  - ・バックスクリーン拡張
  - ・防球ネット拡張
  - ・監督室、トイレ、審判員室などの諸室が不足

#### 野球場の整備の方向性

県内球児、野球ファンがあこがれる、県内野球場の頂点に位置づけられ、プロ野球1軍公式戦も可能な中核・拠点施設として整備

#### ➤ プロ野球1軍公式戦が開催可能な野球場

昭和63年以来、プロ野球1軍公式戦が開催されていないことから、公認野球規則等に適合し、東北楽天ゴールデンイーグルスをはじめとするプロ野球各球団による1軍公式戦が開催可能な野球場として整備する。

#### ➤ 国民体育大会の開催が可能な野球場

将来の国民体育大会の開催に向けて、硬式野球会場や軟式野球会場としての活用を考慮して整備する。

#### 想定される基本仕様

項目	想定される基本仕様
グラウンド	●広さ 両翼100m以上 中堅122m以上
スタンド	●座席仕様 内野席：固定席 外野席：芝生席 ●収容人員 25,000人以上 ●座席数 15,000席以上（固定席）
設備	●照明 内野2,000ルクス以上 外野1,200ルクス以上 ●スコアボード ●バックスクリーン
主な諸室	●主な諸室 ダッグアウト、屋内練習場、器具庫、本部役員室、審判員室、選手控室、監督室、医務室、会議室、貴賓室、整備員室、報道関係者室、ロッカールーム、シャワールーム、事務室など

#### 仕様に見合うモデル施設

こまちスタジアム (秋田県立野球場)		秋田県	
	竣工年	規模・構造	
	平成15年	建築面積	9,892㎡
	収容人員	延床面積	5,666㎡
	25,000人	RC造	
	座席数(固定席)	地上2階建	
15,000席	両翼	100m	
	中堅	122m	